

ガンコ親父の

とある山里に松次郎という樵（きこり）がいた。毎日山の中に入っては真面目に働いたが、山の地主に不当な中間マージンを取られて、その生活は貧しかった。おまけに松次郎は病弱の母親の面倒も見ていたのだった。

松次郎の鉄の斧はよく手入れされていたが、毎日の激務のせいで勤続（金属）疲労を起こしていた。もうすぐ本年度の「全国樵選手権大会」が開催されるのというのに心は晴れなかった。

その大会は全国から腕利きの樵が集まる大会なので、当然、伐採技術もその腕力も高いレベルが要求された。松次郎には自信はあったが、ただ、斧の切れ味だけが問題だった。言うまでもなく、新しい斧を買う余裕などどこにもなかったのだ。山の地主の息子も樵だったが、大会に備えて鋭い切れ味の斧を親から買ってもらっていた。

ある日、松次郎が池の横に生えている木を切ろうとした時、ちょうど樹皮の上に虫が止まっているのに気づいた。心優しく松次郎は慌ててその手を止めたが、斧が手から抜けて池にぼちんと落ちてしまった。大会の前に大切な斧を無くすとは、と松次郎は青くなった。

奄美黒糖焼酎

すると、池の中から神様が現れて「今、斧を落としたのは君かい？どっちの斧じゃったかのう」と、右手に鉄の斧、左手に金の斧を持って尋ねた。松次郎は目を白黒させながらも、鉄の斧を指差した。神様は嘘をつかない松次郎に関心し、それではと金の斧まで与えた。松次郎は金の斧で新しい斧と母親の薬を買えると、喜びながら帰っていった。

その話をどこから聞き出したのか、山の地主の息子は金の斧が欲しくて、同じ池に向いた。そしてボロボロの斧をぼちんと投げ入れた。すぐに、神様が両手に斧を持って水面に上がった。きた。「あなたの落とした斧はどちらですか？」と尋ねた。地主の息子は間髪入れずに金の斧を指差した。

嘘をついた地主の息子に向かって、神様は「オ、ノー」と眉をひそめて困惑しながらも、自分の駄洒落に少し照れた。地主の息子は、なんとかその場を乗り切ろうと、いい加減な出任せを言った。「選手権大会の優勝賞品にはその金の斧がふさわしいと思い、大会に寄付するために嘘をつきました。ごめんなさい」と、まやかしの涙を流した。結局、人の良い神様は、疑いながらも金の斧を手渡してしまった。

重い金の斧はピカピカ光っているので、地主の息子はよく切れるだろうと、新しく買ってもらっていた斧をやめて、金の斧を手に入大会に出場した。だが、松次郎に大差をつけられ負けてしまった。学校の授業をサボってばかりだった地主の息子は、金が柔らかないことを知らなかったのだ。

松次郎は次々に難敵を破り、ついに優勝を勝ち取った。病から回復していた母親の待つ家に、喜び勇んで帰っていった。母は「優勝にふさわしいお酒を準備しておきましたよ」と言っ、『しまっちゅ伝蔵』を持ってきた。その誠実な焼酎の味は母の心を伝えてくれるのにふさわしかった。暖かいものが松次郎の身体に染み渡っていった。

しまっちゅ伝蔵
でん ぞう



常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の肥沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。



900ml (25%) 1800ml (25%) 1800ml (25%)



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
TEL 0997(65)0251



25度
好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造(株)はこの活動を応援しています。



「鉄の斧」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp>

お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。